

## 論文要旨

氏名	磯部 彩香
タイトル (日英併記)	<b>Relationship Between Resilience and Self-Rated Health in Dental Hygiene Students and Registered Dental Hygienists.</b> (歯科衛生学生と現役歯科衛生士のレジリエンスと主観的健康観の関係について)
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>本研究の目的は、獲得的レジリエンスおよび先天的レジリエンスの2つの側面が、既に資格を有している歯科衛生士および歯科衛生学生の主観的な健康状態に関連しているかどうかを調査することである。</p> <p>2017年5月から7月にかけて、福岡県内の歯科衛生学生405名と歯科衛生士85人を対象に、3つのスケールを含む調査を行った。毎日のストレス反応を評価するためのストレス反応スケール-18 (SRS-18)、および一貫性の感覚を評価するためのコヒーレンスの13項目スケール (SOC-13)。主観的な健康状態および臨床経験年数に関する情報も収集された。</p> <p>回答者は歯科衛生学生398人 (98.2%の回答率) と歯科衛生士85人 (100%の回答率) であった。主観的な「健康な」状態を有する群は、他の主観的な健康状態を有する群よりも、トータルスケールおよびBRS、SRS-18、およびSOC-13スケールの各ドメインにおいて高かった。これら3つのスケールと主観的な健康状態は互いに有意に関連していた。先天的レジリエンスが1ポイント増加したとき、平均的な主観的健康値は1.14倍高かった。対照的に、SRS-18の鬱病/不安領域スコアが1ポイント増加すると、主観的健康値は0.84倍低かった。臨床経験年数も主観的健康値と負の相関があった。対象者にとって、先天的レジリエンスはより良い主観的健康値の重要な予測因子であった。</p> <p>歯科衛生士や学生の健康を維持するためには、彼らの生来のレジリエンス、ならびに鬱病/不安要因および臨床経験の長さに関連するストレス反応を理解することが重要である。</p>	